

個体の 番号	蛹			成虫			
	長さ	幅	高さ	横	縦	雌雄	食草
15	18mm	7mm	8mm	64mm	50mm	♀	ススキ
7	23mm	10mm	11mm	83mm	63mm	♀	ジュズダマ

どうして15番だけがこのように小さいのか分からないが、これを発見したのは、「林の林床」の林縁だった。日光のさしているススキの葉裏で、ウスイロコノマチヨウの卵や幼虫がないか捜している時に見つけた。見つけた時は4齢だったので、小さいのには気にとめなかった（ススキで育った幼虫は5齢までは小さかったから）。発見後は他の幼虫と共に林床内のススキで袋かけ飼育をした。

★ 蛹は羽化一日前に飼育箱に取り入れて羽化を観察できるようにした。幸運にも数頭の羽化シーンを観察できた。全ては標本にしていけないので、翅裏の色しか比較できないが、同じ♀でも個体差が見られた。



番号2番。8月29日 9:20 a.m. 羽化。
♂羽化直後撮影。

(たにがわ だいかい)

コムラサキの飼育 谷川大海²

筆者は前号(39号)でコムラサキの採集について報告したが、観察の結果食樹を特定でき(同定はできていない)、卵も得て、第二化と第三化、合わせて4頭を羽化させることができた。ここに産卵行動、飼育経過について報告する(4頭をそれぞれA, B, C, Dとする)。

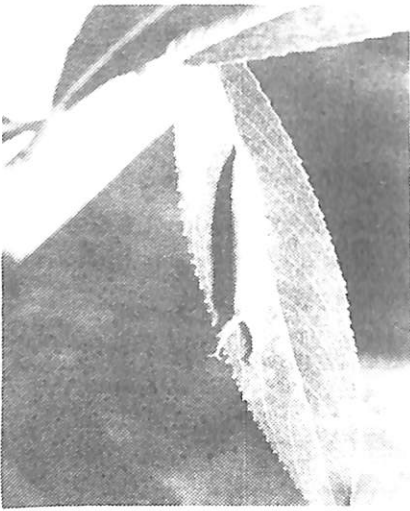
コムラサキ飼育経過表(1993年)

A第2化	卵期	幼虫期1齢-5齢	前蛹	蛹期	羽化
月日	7/14	7/21-8/25	8/26	8/27	9/3 ♀
日数	7	36	1	7	6:50 a.m.
備考	終齢幼虫の体長: 38mm 蛹の体長: 28mm				

B 第3化	卵期	幼虫期 1 齡-5 齡	前蛹	蛹期	羽化
月日	8/7	8/13-9/4	9/5	9/6	9/15
	8/12			9/14	♂
日数	6	23	1	9	8:20
備考	終齢幼虫の体長：41mm				a.m.

一緒に飼育した C♂ (3化) も同じ経過だった。

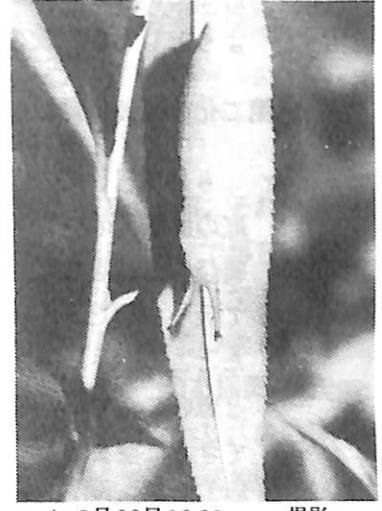
D 第3化	卵期	幼虫期 1 齡-5 齡	前蛹	蛹期	羽化
月日	8/7	8/13-9/10	9/11	9/12	9/19
	8/12			9/18	♀
日数	6	29	1	7	7:00
備考	終齢幼虫の体長：43mm				a.m.



C. 8月26日撮影.
体長25mm.3齡.



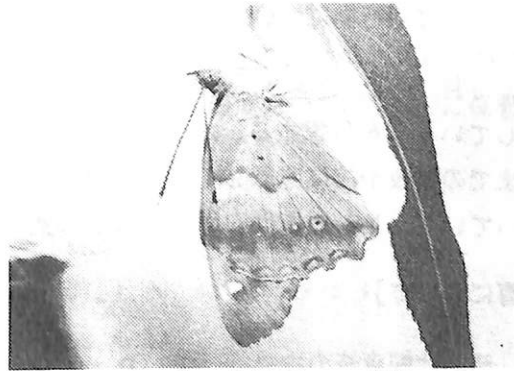
A. 8月25日(前蛹になる
1日前).角の先までの体長
:43mm.(角状突起を含めない場
合38mm).



A. 8月26日16:20 p.m. 撮影
体長:35mm(角の先まで)葉裏に
頭を下にして中脈に沿って垂下
している.



A. 蛹.9月2日撮影.(羽化1日前)



C. 9月15日 7:15 a.m. 羽化.
♂ 羽化直後に撮影.

【第一化の産卵行動について】

- ★ 7月14日，くもり，午後雨，室温27度．第一化の成虫はほとんど姿が見えない時期になっていた．この日まで観察を続けていたが，♀が樹液を吸っている姿は目撃したが，産卵行動は見る事が出来なかった．時期が遅れているので諦めかけていた．午後一時．強風と言っていいほどの風が吹いており，雨もバラバラしはじめた．母蝶がヤナギの木に向かって飛んでいるのだが，なかなか到達出来ないでいた．ちょうどその時に出くわした．やっとヤナギの木にとりついた．まさか産卵をしているとは思わなかった．腹部を曲げているのが分かった．しかしその後も母蝶は動こうともしない．雨も降ってきている．写真を撮るためにフラッシュをたいてもびくともしない．ネットインして，ヤナギの葉表を調べてみると緑色の卵が葉表に産付してあった．感動の一瞬だった．この母蝶を別の枝に袋がけにしてさらに卵を得ようとしたが，次の日にネットの中で死んでいた．最後の産卵だったようである．

【第二化の産卵行動について】

- ★ 8月7日，雨，室温26度．2日前に採集した少し傷んだ♀を産卵させようとして庭の鉢植えのヤナギに袋がけにしてあった．この2日間は空しく過ぎていたのだが，朝袋の位置を変えてブドウの腐果を吸わせてあった．この日はうまく口吻を伸ばして吸っていた．午後5時頃，葉表を調べてみたが卵はなかった．だめかと思っていたところ，ネット上に何か黒い点が見えた．なんと卵だった．産むのは食樹に直接と思いこんでいたので以外だった．2卵，3卵と合計5卵産んであった．嬉しくなつてさらに産ませようと次の日まで袋がけを続けた．つぎの朝見ると支柱の竹に2卵産んであった．昨日あれから産んだものと思われる．風が吹いて雨が降っていた．
- ★ 8月8日，午後1時．♀を採集に行く．幸運と言おうか母蝶がヤナギの木の中で産卵している．今産付した場所に登って見ると，細い枝の分岐部に緑の卵が1個産み付けてあった．やっとこのシーンに巡り会えた．袋がけをしていると，先ほどの母蝶が目前の葉表に産卵した．この日もしぐれたりしてあまり天気はよくなかった．風が少しあった．室温27度．

【第三化の産卵行動について】

- ★ 9月19日，くもり，室温26度．午後1時すぎ「沼の林床」のヤナギの木で産卵している♀を目撃する．木の中を飛び回りながら，6m以上もある梢から下のほうまでの葉表や枝に産卵している．第二化の産卵行動とよく似ていた．小雨がぱらついていた．しかし風は吹いていなかった．

【飼育について】

- ★ 初めは飼育箱の中で行っていた．しかしこの”幅の狭い葉のヤナギ”は極端に水あげが悪く，毎日新鮮な葉と取り替えねばならなかった．池の周囲には小さい株もかなり生えていたのでこれを鉢に植えて利用することにした（この近くの人に，こ

のヤナギは折れ易いが挿し木も簡単であると教えてもらった)。2週間ほどで新しい芽が出てきて利用できるようになった。しかし自然状態では(観察を続けたのだが)卵も幼虫も発見することが出来なかった。枝が折れ易く、脚立を使って捜してみたのだが、6mを越す木もあり、卵を得てからは諦めてしまった。

★ 第二化の産卵でネット上に産んだ卵5個と竹の上に産んだ卵2個の合計7卵からは5匹の幼虫を得ることが出来た。自然状態の卵も2個得ていたのだが1匹袋をかけたまま台風で飛ばされてしまった。結局6匹の幼虫を飼育し始めた。半分の3匹は自然状態で飼育しようとして池のヤナギで袋がけにしていたのだが、台風のためか、子供のいたずらのためか、袋はずれていて駄目になってしまった。

(たにがわ だいかい)

ウスイロコノマチヨウ飛び来る 谷川大海²

9/1に「沼の林床」で♀一頭(♂は目撃のみ)、9/2に「林の林床」で♂一頭、それぞれを共に早朝まだ露の残る林縁で採集した(どちらも夏型)。9/3に「沼の林床」で再び♂を目撃する(9/1に見たのと同じかどうかは分からず)。これらの林床はクロコノマチヨウの飼育で観察を続けていたので、これらは他から飛来したものと思われる。この後も観察を続けていたが、9/19になって「林の林床」の林縁で、午後1時頃、♂一頭を採集した。この♂が9/3に再度目撃したものかどうかは分からないが、新鮮な個体でないし、「林の林床」は「沼の林床」の北約500mにあることを考えると、同じ♂が飛んで来た可能性はある。なお9/1に採集した♀から卵を得ている。結果を次号で報告できればと思っている。

(たにがわ だいかい)

淡路島未記録の蜂類 大草伸治³

筆者はここ数年淡路島で昆虫を採集してきました。今回は蜂類の中でいくつかの島内未記録と思われる種をここに報告します。なお標本は自然環境研究所(NSI)⁴⁾に保管しています。

Diprionidae マツハバチ科

ネズハバチ *Monoctenus nipponicus* TAKEUCHI

津名郡東浦町白山	3♂	1991. 4. 20/ 3♂	1992. 4. 18
津名郡北淡町舟木	2♂	1992. 4. 23	

3: 〒494 愛知県尾西市明地字丸川 41-10

4) 兵庫県津名郡津名町人町畑 235